

令和6年8月21日

八戸市議会
議長 小屋敷 孝 様

経済常任委員会
委員長 久 保 百 恵

視 察 実 施 報 告 書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- | | |
|------------|---|
| 1 日 時 | 令和6年7月24日（水）～7月26日（金） |
| 2 視察先・調査事項 | 岡山県岡山市
(1) 岡山城主要部跡地整備方針について
(2) スタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップ
カフェ（ももスタ）」について |
| 3 調査結果概要 | 別紙のとおり |
| 4 派 遣 委 員 | 田名部 裕 美
壬 生 八十博
豊 田 美 好
五 戸 定 博
吉 田 淳 一 |

【委員会調査報告書】

委員会名	経済常任委員会
派遣委員名	◎副委員長：田名部 裕美 ◎委員：壬生 八十博、豊田 美好、五戸 定博、吉田 淳一
日程	令和6年7月24日（水）から7月26日（金）まで
目的	岡山城主要部跡地整備方針及びスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」の取組を視察し、当市のまちづくり施策及び創業支援の参考とするため
視察先	岡山県岡山市（岡山市役所及びももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ））
視察概要	1 岡山県岡山市（その1） (1) 調査事項 岡山城主要部跡地整備方針について (2) 説明者 政策局政策部 事業政策課 参事 安東 京子 氏 課長補佐 近藤 啓介 氏 (3) 概要 ① 背景・目的 岡山市のシンボルであり都市形成のルーツである岡山城は、令和4年11月に「令和の大改修」が行われ、リニューアルオープンし、また、令和5年9月には、文化・芸術の拠点となる岡山芸術創造劇場ハレノワが千日前にグランドオープンするなど、宇喜多氏による城下町整備の始まりから450年の時を経て新たな時代を迎えている。こうした中、暫定活用している旧内山下（うちさんげ）小学校跡地及び旧NHK岡山放送会館跡地、そして、閉館となった岡山市民会館という岡山城の城郭内に位置する3か所の市有地（岡山城主要部跡地）の活用について、「岡山城主要部跡地整備の方向性」を公表し、市民等を対象としたワークショップや民間事業者へのサウンディング型市場調査を実施するなど、岡山城主要部跡地の旧城下町エリア、ひいては、中心市街地のまちづくりに資する活用に向けて、市民や事業者からのアイデア等も参考とし、策定することとしたもの。 ② まちづくりの方向性 ＜中心市街地＞ ・中四国のゲートウェイとしての役割を担う岡山市の中心市街地は、商業、業務・集客施設等が集積する「JR岡山駅周辺エリア」と歴史・文化資産が集積する「旧城下町エリア」の2つの核で形成を図る。 ・それぞれのエリアが固有の魅力を高めるとともに、両エリアをつなぐ魅力ある都心空間づくりの取組を面的に拡げ、まちなか全体の魅力と賑わい、回遊性の向上を図っていく。

＜旧城下町エリア＞

- ・旧城下町エリアは、岡山の都市形成のルーツである岡山城をはじめとした歴史・文化資源が集積し、市内外から様々な人が集う「本市の顔」といえるエリアであり、固有の魅力を高めるためには、強みである「歴史・文化」を生かした取組が必要。
- ・まちなか全体の回遊性を向上させるためには、岡山駅周辺エリアからの東西都市軸（桃太郎大通り、ハレまち通り・県庁通り）や旧山陽道の南北の都市軸（表町商店街）、岡山固有の美しい景観を有した親水空間である旭川河畔を踏まえた取組が必要。

③ 岡山城主要部跡地整備の考え方

整備にあたっては、岡山城が持つ歴史的価値を損なわないよう慎重に進める必要がある。これまでの発掘調査の結果を活用し、保存すべき遺構を明確にしながら、適切な保護策を講じることが求められる。さらに、訪問者の利便性を向上させるため、交通アクセスの改善やバリアフリー化の推進を進める。また、岡山城が地域社会と一体的に機能するよう、周辺エリアとの連携を強化することが重要である。

④ 整備方針

- 歴史的遺産の保全と活用
- 景観整備と都市空間の向上
- 観光振興と地域経済の活性化
- 市民と観光客の利便性向上

⑤ 今後の取組

今後の取組として、まずは財源確保と計画の具体化が急務であり、国や県の補助金の活用だけでなく、民間資本の導入やクラウドファンディングの活用も視野に入れ、地域住民との意見交換を行い、計画の透明性を確保しながら、整備方針に対する理解と協力を得ることが重要である。

加えて、他の歴史的城郭整備事例を参考にしながら、最適な整備手法を模索し、姫路城や熊本城などの先進事例を踏まえ、現代のニーズに適応した開発手法を取り入れることが求められる。

最終的には、岡山城主要部跡地が地域のシンボルとして機能し、歴史的価値を継承しながら、地域経済の発展にも寄与できるよう、長期的な視点での計画推進が求められる。



2 岡山県岡山市（その2）

(1) 調査事項 スタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」について

(2) 説明者 産業観光局商工部

創業支援・雇用推進課 課長 河合 祥次 氏

課長補佐 松田 将治 氏

係長 塚原 義博 氏

(3) 概要

① 岡山市がスタートアップを支援する理由

○市内経済へのインパクト大になる可能性が高い

- ・市内経済の牽引役となる上場企業の輩出
- ・オープンイノベーションによる市内産業の生産性向上・活性化
- ・雇用の創出、学生の定着率の向上
- ・社会課題の解決、市民の利便性の向上 など

○「新たなチャレンジを応援する都市」としてのイメージUP

② 主なスタートアップ支援策

- 資金提供：ベンチャーキャピタルとの連携、助成金・補助金の提供
- メンタリング：経営者や専門家による個別指導
- ネットワーキング：スタートアップ間の交流促進、投資家とのマッチング
- インキュベーション：共同オフィスの提供、事業成長支援

③ イノベーションハブとしての「ももスタ」の役割

ももスタは、岡山市のスタートアップエコシステムの中心的な役割を果たすイノベーションハブであり、以下の点で重要な機能を担っている。

【起業支援の拠点】

起業を目指す個人や新興企業に対し、ビジネスプランの策定支援、資金調達のアドバイス、法務・会計サポートなどを提供。

【ネットワーキングの場】

スタートアップ同士の交流、投資家や大手企業とのマッチングを促進するイベントやワークショップを定期的に行う。

【インキュベーションプログラムの運営】

事業の成長を加速するための専門的な指導や、メンターとのマッチングを通じた支援を実施。

【オープンイノベーションの促進】

地元企業や大学、研究機関との連携を強化し、新しい技術やビジネスモデルの創出を支援。

【地域経済との連携】

岡山の強みである農業・観光・医療分野とのシナジーを生み出し、地域に根ざしたスタートアップの発展をサポート。

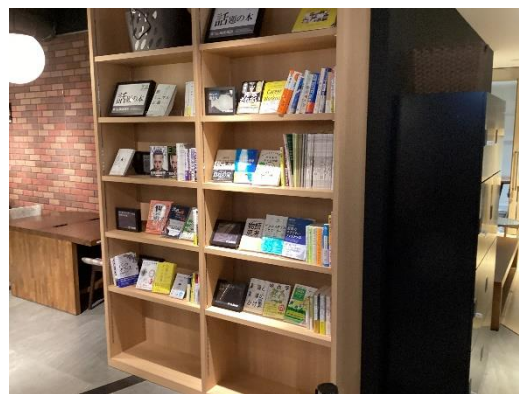
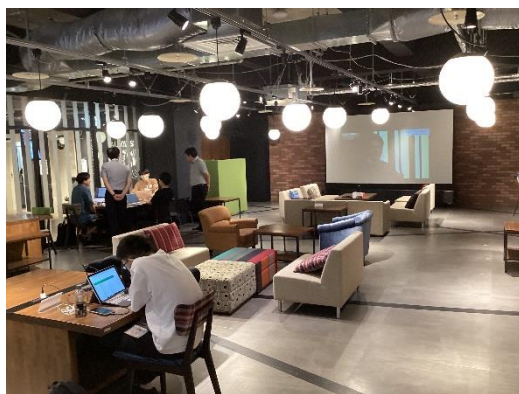
④ 成果と課題

成 果

- ・多くのスタートアップ企業が資金調達に成功
- ・ビジネスマッチングイベントの成果として、新たな事業提携が生まれている
- ・メンタリング制度が機能し、企業の成長を促進

課 題

- ・支援策の認知度向上が必要
- ・一部のスタートアップに支援が偏る可能性
- ・長期的なフォローアップ体制の強化が求められる



所 感	<u>岡山県岡山市（岡山城主要部跡地整備方針について）</u> 2022 年 11 月に令和の大改修としてリニューアルした岡山城、旧二の丸を軸とした街づくりについて視察させて頂いた。 店舗や集客施設が集まる岡山駅周辺と歴史、文化資産がある岡山城周辺をどのようにつなげて回遊性を高めていくかということが課題となっている。ビッグデータによれば、岡山駅の通行人口は令和 2 年で約 22,800 人なのに対し、岡山城周辺は約 2,400 人と 1 割程度であった。 歴史・文化を生かした魅力づくりをしながら、市民が集い、憩いの場にもなる緑のオープンスペースの確保が必要とのことであったが、市民からアイデアを募るワークショップには定員 100 名のところ 120 名の応募があったそうで、新たな街づくりに関わろうとする岡山市民の意識の高さに驚いた。 また、旧内山下小学校利活用に関しては民間を対象としたサウンディング型市場調査では改修費用の面で課題があり利活用はできていないようだった。実際に、路面電車に乗り、岡山城も視察してみたが、県外の観光客にとっては路面電車や烏城と呼ばれる岡山城も大変珍しく大きな観光資源になっていると感じた。 この観光資源の他に計画が策定をされた歴史を感じる憩いの場が整備されることにより、市民がイベントを行ったり家族連れで訪れたりと相乗効果になり得ると感じた。 当市でも、更上閣や南部会館等歴史のある建物がありキッチンカー等のイベントも行われているが、奥ゆかしい歴史ある建築物と中心街公共施設の回遊性が高め、賑わいにつながる新たな視点が必要だと思う。
-----	--

所 感	<u>岡山県岡山市（スタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）について）</u> 岡山市の経済成長の担い手として期待されるスタートアップの支援拠点“ももスタ”を視察させて頂いた。 県では、飲食、美容業等スモールビジネスを支援する一般の創業支援をし、市では若手の起業家を支援するスタートアップ支援と役割が分かれていた。 運営体制も官民連携で都市銀行や商工会議所とも連携を図り、若手の起業家を支援するベンチャーキャピタルのメンバーも運営委員として入り、相談体制も充実していた。一番驚いたのは当初 1,500 万程度の予算規模だったのが、令和 6 年度は 1 億 2,000 万円となり、半分はデジタル田園都市国家構想交付金からの予算だということで、国をあげて支援するスタートアップ事業を上手く利用している先進事例であった。 さらに、岡山大学にも起業部という部活動があり、社会課題につながる起業をしており、役所、民間、学生としっかりと連携をし、起業をバックアップしていた。ももスタを拠点に毎月交流イベントも行い、岡山市だけでなく瀬戸内スタートアップと瀬戸内海エリアで大きく若手起業家を支援する活動が盛んに行われており、成功が確証されていないチャレンジに対し、市の予算を投資するのは大きな賭けだとも感じた。 若者の都市部への人口流出が課題のなか、市内で頑張る若手起業家を応援する姿勢はとても大切だと思う。当市ではまだ交流の場を作っただけなので、起業を支援できるような資金体制にも国の交付金を使いながら活用してほしい。 以下余白
------------	---